

HPV予防ワクチン接種再開のお知らせ

～子宮頸がんがワクチンで予防できます～

ご存知でしたか？

子宮頸がんは女性特有のがんとして乳がんに次いで発症率の高いがんで、日本では年間約 15,000 人が発症し、約 3,500 人が死亡していると推計されております。子宮頸がんがお年寄りの病気だというのは 40～50 年前の話であり、特に最近では 20～30 歳代の発症が急増しており、この年代では乳がんをはるかに上回っています。子宮頸がんは、ほぼ 100%が発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因で発症します。発がん性 HPV には 15 種ほどの型があり、中でも HPV16 型と 18 型は子宮頸がんから多く見つかる型で、日本では全年齢では約 60%ですが、20～30 歳代では 80～90%を占めています。

発がん性 HPV は 8 割もの女性が一生のうちに一度は感染しますが、子宮頸がんを発症するのは感染した女性の 1%未満であり感染後数年～十数年後に発症すると考えられております。一方で、発がん性 HPV は感染しても免疫が出来にくいため、何度も感染する可能性があります。今回発売された「ガーダシル」は 16 型と 18 型の 2 つの型に対して感染予防効果を持つ従来のワクチンとは異なり、2 つの型プラス尖圭コンジローマの原因となる 6 型と 11 型の、計 4 つの型に対して感染予防効果を持っております。

このワクチンは 3 回の接種（腕に筋肉注射施行）により、免疫応答の増強により強力な血清抗体価を誘導します。現在まで少なくとも 7 年間は感染防御が確認されており、30 年間は高い抗体価を維持できると推計されております。**但し、接種時すでに自然感染している HPV やワクチンの含まれる型以外の子宮頸がんに対しての効果は確認されておられませんので、接種後も定期的に子宮頸がんの検診を受け、早期発見に努めるようお勧め致します。**

当センターでは年明けより供給困難な状態が続き一時中断しておりましたが、このたび 10 月 3 日（月）より「ガーダシル」によるワクチン接種を再開することとなりました。接種をご希望の方は事前に予約をお取りになり接種していただきます。

接種当日は、体調不良等の有無を確認する必要があることから、接種後 30 分程度待機していただきますので、時間的に十分余裕をもってご来院願います。

接種は申し込み日から 1 週間後、受付は 21 階となります。

料金は、1 回につき 18,900 円(税込)となります(3 回施行)。

予約電話. 03-3499-3170

平成 23 年 10 月 3 日

東京女子医科大学附属成人医学センター